

茨城県原子力安全対策委員会(令和5年度第2回)資料2に係るコメント対応表

No	当日資料の該当ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
1	P21	ハザードに応じた災害を想定した対応はどのように取られているか。	塚田委員	安全上重要な施設がないため、グレーデッドアプローチを適用し、資料P21のとおり設計方針としている。	-
2	-	空間線量率以外でどのようなモニタリングを実施しているか。	塚田委員	モニタリングについては、大洗研究所として共通するモニタリングポストで対応している。施設内はスタックモニタ、エリアモニタ等で管理している。	-
3	-	地下水のモニタリングは定常的に実施しているか。	塚田委員	夏海湖周囲の計8か所に地下水の観測孔を設けて観測しており変動がないことを確認している。夏海湖は人造湖で、湖底を粘土層で覆っているため、地下水位が変動したり液状化することはない。	当日の回答のとおり、所内は8か所に地下水の観測孔を設けて観測しており、地下水位が変動したり液状化することはないことを確認している。 さらに、平常時の環境放射線モニタリングとして、年2回の頻度で、地下水由来を含む6か所(涸沼、夏海湖、北松川水道水、大洗町水道浄水場、大洗研構内の浄水場、那珂川)の水試料をサンプリングし、γ線核種及びトリチウムをモニタリングしている。このうち地下水由来のものは、北松川水道水、大洗町水道浄水場、大洗研構内の浄水場である。大洗町水道浄水場と大洗研構内の浄水場は、くみ上げた地下水をサンプリングし、北松川水道水は大洗町水道浄水場を由来とする水道水をサンプリングしている。
4	P27	第9条の不法侵入は、追加対応はあるものの詳細説明がないのは、機微情報を含むからか。	出町委員	具体的なものは機微情報が含まれるため記載していないが、フェンス、警備所の設置、施錠管理を実施している。資料は計測制御設備への不正アクセス防止の観点から記載したもの。	-
5	P33	塔状の比較的高い建造物の耐震設計はどのようになっているか。なお、安全情報交流棟に関する質問内容は、議題1の「常陽」と共通して対応いただきたい。	糸井委員	排気筒などは建物と同様の評価を実施している。耐震Bクラスでの設計である。	議題1の「常陽」の回答同様に、緊急時対策所である安全情報交流棟が使用できない場合は、事務本館等の施設でバックアップする。
6	P33	Bクラスだと静的な設計となるが、地盤種別はどのように設定しているか。	糸井委員	確認する。	α固体処理棟の排気筒(地上高さ40m 最小外径1.8mの円筒の鉄筋コンクリート造)は杭基礎でN値50以上の砂層に支持させており、地盤種別は第2種地盤で、振動特性係数は1.0として評価している。
7	P33	低層の建造物は地盤種別を考慮しなくてもよいが、塔状の建造物は動的に揺れるので、耐震性の考え方をまとめていただきたい。	糸井委員	承知した。	「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」において、施設は建物・構築物又は機器・配管系に分類され、それぞれ耐震設計上の重要度に応じ耐震Sクラス、耐震Bクラス、耐震Cクラスと分類される。廃棄物管理施設の排気筒は建家と独立して設置しており、耐震評価上は建物・構築物に位置付けられ、耐震重要度分類は耐震Bクラスとなる。

No	当日資料の該当ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
					<p>本指針において、耐震 B クラスの建物・構築物は静的地震力で耐震評価を行うとされていることから、当該排気筒は静的地震力で耐震評価を行っている。</p> <p>一例として、廃棄物管理施設の α 固体処理棟の排気筒は、地上高さ 40m の円筒の鉄筋コンクリート造で、耐震評価における地震力は、排気筒の全長及び高さ方向の分布係数を考慮し、地震層せん断力係数を 1.5 倍して算定される水平地震力に基づいて評価している。</p>
8	P15	周辺公衆とはどの範囲を指しているか。	岩崎委員	敷地境界すぐの住民である。	-
9	P13	アスファルト固化体は過去に製作したものか。	寺井委員	現在は製作していないので、過去に製作したものを保管している状況である。	-
10	P62	角型鋼製廃棄物パッケージとはどのようなものか。資料にも図示した方がよいのでは。	寺井委員	1m ³ のコンテナである。200Lドラム缶に収納できない大きさの廃棄物を収納している。	P14 に角型鋼製廃棄物パッケージを図示した。
11	P30	遮蔽評価はスカイシャイン線対策であることを明記すべきではないか。	寺井委員	分かるように記載する。	P31 (旧 P30) にスカイシャイン線対策であることを追記した。
12	P38	$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟 IV における竜巻の対策のイメージが湧かない。メッシュにするのか、パンチングメタルにするのかなど、様々な対応があると思うので、表現があった方がよい。	寺井委員	パンチングメタルなどの衝立を予定しているので、分かるよう工夫する。	竜巻対策として、防護対象設備を鋼板で覆うことを検討している。その旨が分かるよう、P39 (旧 P38) の図を見直した。
13	〃	廃棄物の移動時の時間が十分に担保されていることを記載した方がよいのでは。	寺井委員	記載する。	P39 (旧 P38) の下部に、移動時間は十分に担保されており、その詳細について P77-79 (旧 P76-78) に記載されていることを追記した。また、P79 の体裁を見直した。
14	P39 P10-12	P39 に人が関わる設備があるが、P10-11 の工程中、人間が手で行う工程はどのあたりか。	明石委員	液体廃棄物では各処理工程での人による装置のスイッチ操作となる。固体廃棄物では、圧縮装置への投入、スイッチ操作、圧縮後の取出し、パッケージへの詰め込み、焼却炉への投入、焼却灰の取出しなどを人の手で行う。	-
15		そういう場所での吸引、放射性物質の汚染が起き得ると理解してよいか。	明石委員	基本はグローブボックス、セルで行うのでおそれは少ないが、接触する場合は全面マスク等を着用し作業を行う。	-